平成２９年１０月２５日

落語登場人物の常連

落語にはいろいろな人物が登場します。今回はその中から多くの落語に出てくるメンバーについて学んでみたいと思います。一方、個人名は出てこない植木屋さんとか大工さんとか職業や肩書などのみで語られる噺もあります。これは登場人物がさほど多くなく職業のみで人物の区別が可能だからと思われます。

１．八五郎（五十二話＜落語事典　１２６０話中＞
落語界のスーパースター。長屋噺に数多く出演し、その回数は群を抜いています。「ガラッ八」のあだ名のとおり、がさつな男の役は殆どこなしている。ただ「妾馬」では妹思いの優しい兄貴を演じている。

２．熊五郎（３８話）
八五郎と並んで長屋噺に多く出演している。演者によっては元来の八五郎役を熊五郎にやらせたりするので区別がつきにくくなっている。しかし、「脳天熊にガラッ八」と言われるように余り物事を深く考えない乱暴者であったようだ。なお、熊と八が共演するのは８話のみ。

３．与太郎（３７話）
馬鹿を売り物にして多くの噺に登場する大スター。一番いい思いをしているのが「錦の袈裟」皆が錦のふんどしをしているのに与太郎は和尚から借りた袈裟を着ていく。袈裟に輪がついているのが女郎に大もて。「かぼちゃ」では叔父に「上を見て（掛値して）売れ」と言われたので天井を見てかぼちゃを売る。

４．定　言（３２話）
小僧ながらただ小間使いのように働くのみではなく、いろいろな面で活躍する。
定吉が３匹の犬を飼っていたが岩崎家に貰われていった犬が幅をきかせている「大どこの犬」。
定吉がはたきをかけて鳴らしていた太鼓が火炎太鼓で３００両で売れる「火炎太鼓」など。

５．甚兵衛（２２話）
落語の本などに「落語に出てくるのは、八っつあん、熊さんに馬鹿の与太郎。人がいいのが甚兵衛さん」などと紹介されるお人好し。大みそかの借金とり対策に口上手なあんまを頼んだり「言訳座頭」、地主の家の婚礼に鮑を持って行ってしどろもどろしたり「鮑のし」など。

６．権　助（２１話）
下男・飯炊きが主な役割。八五郎が朝から寺男の権助を相手に酒を飲む「こんにゃく問答」、とても理履っぽい下男「しの字嫌い」など。

７．お　花（１５話）
落語には女性の名前も沢山出てきますが、お花はその代表格。善吉と結婚して身延

山へお参りに行く豆腐屋の娘「甲府い」、旦那と心中する筈が旦那だけ飛び込ませる女「星野屋」など。

以　上